

# センターだより

NO. 1 1

平成24(2012)年3月13日発行  
吹田市立教育センター  
大阪府吹田市出口町2-1  
TEL 06-6388-1455  
FAX 06-6337-5412  
メール s-educ@suita.ed.jp

繋ぐ→支える→発信・リードする教育センター

## 平成23年度 事業報告



### 1 調査・研究

#### (1) 研究グループ活動

- ① 情報教育・ICT活用研究G      ② 発達理解研究G      ③ 小学校英語研究G
- ④ 子ども支援研究G              ⑤ 理科教育研究G

#### (2) 教育情報の収集・発信

- ① センターだより(各月・特別号VI④、XI)・紀要106号(年度末発行)、所報82(年度末発行)、要覧NO.18(毎年発行)
- ② 教育資料等の充実・活用、検索システムの改善      ③ 情報教育用コンテンツの充実(ホームページの利用)

### 2 教職員研修 . . . . . 193講座 参加者 延べ4,887人 (3/9現在)

#### (1) 一般研修講座 . . . . . 152講座 参加者 延べ 4,243人

- ① ライフステージに合った研修講座(85講座)
  - ・初任者、新転任者、フレッシュ(新規採用養護教諭・事務職員・幼稚園教諭、新規任用講師)
  - ・ステップアップ、ヤングリーダー、学校パワーアップ、10年経験者、スクールリーダー(首席・指導教諭)
- ② 教育課題別研修講座(15講座)
  - ・新教育課程(武道等)、学力向上、国語力、教育相談、危機管理、応急手当
  - ・人権教育、キャリア教育、健康教育、理数教育、授業研究リーダー養成等
- ③ 教科・領域別研修講座(22講座)
  - ・授業づくり(理科実験・観察、ICT活用、スーパーティーチャーに学ぶ等)
  - ・小学校英語活動(基礎研修、授業研修、夏季集中)
- ④ 幼稚園教育研修講座(1講座)
- ⑤ 専門職等研修講座(11講座)
  - ・学校事務職員、栄養教諭、養護教諭、学校図書館担当者
- ⑥ 特別支援教育研修(18講座)
  - ・特別支援教育コーディネーター(ベーシック・アドバンス)、特別支援教育事例検討、支援学級
- ⑦ さつきら・るーむ(初任者教員等相談室)(延べ21回)
  - ・研究授業等に向けての相談、代表研究授業に向けての相談、個別支援が必要な初任者への訪問指導等



#### (2) 情報教育研修講座 . . . . . 41講座 参加者 延べ 644人

- ① システム管理      ② 情報セキュリティ      ③ 情報モラル      ④ 校内LAN・ICT機器活用
- ⑤ ホームページ・ブログの作成・活用      ⑥ 各種ソフト活用      ⑦ 栄養教諭・学校図書館担当者・校務員研修

### 3 教育研究大会 参加者 延べ2,912人

・平成23年8月30日(火)14:50～(メイシアター他) 全体会、7分科会及び展示

### 4 教育相談

- (1) 電話・来所相談      情緒・行動、学習・発達、不登校に関する相談が多くを占めました。
- (2) 出張教育相談      全小学校に教育相談員を派遣し、子どもや保護者、教職員のニーズに対応してきました。
- (3) 不登校児童・生徒支援事業      学校復帰を目標にして、光の森活動、学びの森活動、家庭訪問活動をとおして子どもたちを支援してきました。
- (4) 特別支援教育推進事業      巡回相談、教職員研修、保護者啓発研修、ペアレント・トレーニングをとおして、子どもや保護者、教職員を支援してきました。
- (5) 進路選択支援相談      奨学金や貸付金等の進路選択に関する相談を受け、保護者等を支援してきました。

### 5 情報教育

#### (1) SATSUKIネットの普及・運用

- ① 学校園ホームページの管理・更新      ② 教職員へのID、メールアドレスの配付による運用
- ③ 「校務なび」による学校間連絡体制      ④ サーバセンターを中心としたセキュリティ確保の一元化等

#### (2) 情報教育推進支援

- ① 情報教育推進委員会(6回開催)      ② 情報教育研修の実施      ③ 情報教育支援員の派遣

## ◆ 教育相談 ◆

教育センターでは、平成23年度もあらゆる相談事業を実施し、多くの方に活用していただきました。以下のとおり報告いたします。

### 〔出張教育相談・スクールカウンセラー〕

平成23年度は市内35全小学校に対して3校で年間30回、32校で年間18回の出張教育相談を実施し、全18中学校に対してはスクールカウンセラーを年間35回派遣しました。内容は児童・生徒に対するカウンセリング、保護者に対する面談、そして教職員に対するコンサルテーション、また校内のケース会議や支援会議へ参加しました。2月末の時点で主訴として一番多かったのは小学校では“問題行動”中学校では“不登校”で、小・中とも“発達課題”に関する相談も多くありました。主訴全体で小学校では3000回、中学校では2000回を越える相談回数がありました。

### 〔来所相談・電話相談〕

教育センターにおける来所相談・電話相談では合わせて3000回を越える相談がありました。主訴では不登校、問題行動が最も多く、ついで発達、学習となっています。

### 〔来年度に向けて〕

H24年度は小学校において年間30回の派遣校をさらに2校を拡充し、合計5校とします。また、今年度は全中学校ブロックにSSWが配置されましたが、カウンセラーとSSWを学校課題に対する支援者として課題に応じて効果的に活用していただくことで、さらなる学校支援を進めていきたいと考えています。また、教育センターにおける来所相談では幅広い相談ニーズに対応するために相談時間帯の拡大を図ります。

## ◆ 不登校児童生徒支援事業 ◆

### 1. 適応指導教室の本年度の状況

本年度も、学校復帰を目標に「光の森」「家庭訪問」「学びの森」とそれぞれの適応指導教室での活動が実施されました。平成23年度の在室数（2月末現在。体験中児童生徒含む）は、「光の森」が15名（中学3年生7名、2年生7名、1年生1名、小学生0名）です。「家庭訪問活動」では本年度1名に対応しました。「学びの森」は16名（中学3年生8名、2年生4名、1年生が4名、小学生0名）です。

今年度は、学校と連携し、その子どもにとってよりよい支援を行えるようにと、見学希望があがった際に、必ず、「学校訪問」を行いました。「学校訪問」では、センターの指導主事、研究員、相談員が3人で伺い、校長先生、担任の先生、不登校支援の中心的な先生などと、不登校に至った経緯、子どもの状況、学校の取組を聞かせていただきました。子どもの様子を事前に知ること、その子に合う適応指導教室を選択することができるのはもちろんですが、学校との連携の仕方を相談することができました。また、「光の森」、「学びの森」の両方に毎日、相談員が配置されたことで、子どもや親との面談を定期的に行ったり、個別の復帰プログラムを作成し、それに沿って支援をしたりすることができました。

### 2. 次年度へ向けて

適応指導教室は単年度ごとの受け入れですので、できるだけ年度中の学校復帰を目標として自立の支援を図っていますが、完全復帰は難しいケースが多いのが現実です。本年度もテストや行事に参加する部分登校をする児童・生徒はだんだん増えていきましたが、完全に復帰したのは、ごく少数でした。そこで、次年度は、さらに学校との連携を深めながら、子どもたちが学校復帰の目標を達成できるように支援していきたいと考えています。

また、入会の手続きも簡素化を図るとともに、「ガイドブック」を改訂しますので、各学校での活用をお願いします。

# 教職員研修

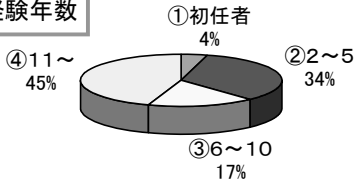
平成23年度は、新教育課程実施に向けての内容や次世代リーダー育成・ICT活用などに重点をおき、合計193の研修講座を実施し、のべ4887人の参加がありました。研修アンケートについては、今年度は117講座で実施し回収率も85%でした。多くの方々からのご意見・ご感想ありがとうございました。

■ 平成23年度研修講座と参加者数(3月9日現在) 全講座数 193 講座 参加者数のべ 4887 人

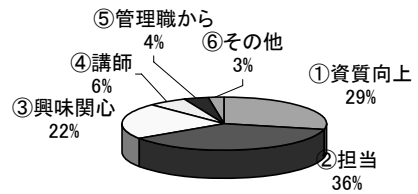
研修講座名	講座数	参加者数	研修講座名	講座数	参加者数
学校パワーアップ研修	6	52	教育課題別研修	15	717
ヤングリーダー研修	5	54	小学校英語活動研修	11	318
初任者・フレッシュ研修	48	1044	授業づくり研修	11	384
ステップアップ研修	17	483	専門職等研修	11	183
10年経験者研修	5	90	特別支援教育研修	18	774
スクールリーダー研修	4	96	幼稚園教育研修	1	48
			情報教育研修	41	644

## ■ 全体結果概要(集計117講座 集計人数 3308人 回収率 85%)

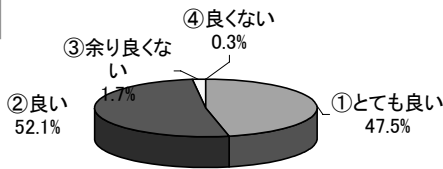
参加者経験年数



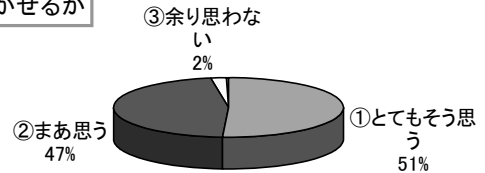
目的



内容



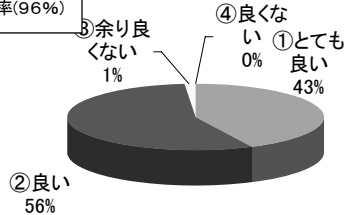
職務に生かせるか



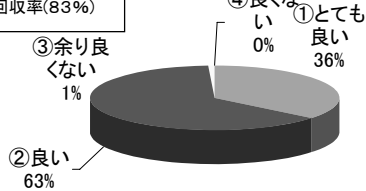
研修参加目的や参加者経験年数は、昨年度とほぼ同じ傾向がみられました。研修内容については、98%の方から「良かった」、また98%の方から「今後の職務に生かせそう」と回答があり、昨年度と同様の高い評価を受けました。特に、授業づくり研修・幼稚園教育研修・学校パワーアップ・ヤングリーダー研修では、半数以上の方から「とても良い」と評価を受けました。研修時間・時期についてや自由記述からもたくさんの貴重な意見がありました。来年度は、これらを参考にしながら、今日的な教育課題や各学校園のニーズも踏まえ、次年度の研修を準備していきます。

## ■ 講座別結果(「内容はどうか?」に対する回答)

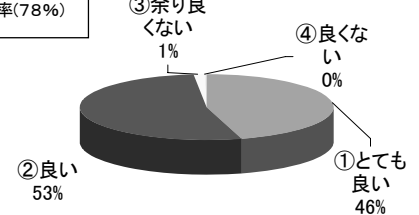
専門職研修  
回収率(96%)



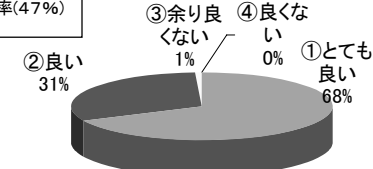
特別支援教育研修  
回収率(83%)



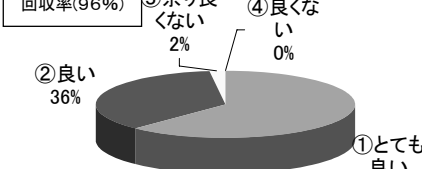
課題別研修  
回収率(78%)



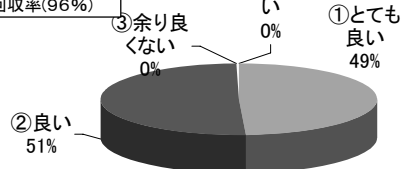
授業づくり研修  
回収率(47%)



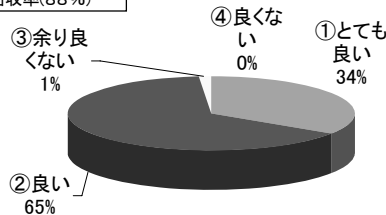
幼稚園研修  
回収率(96%)



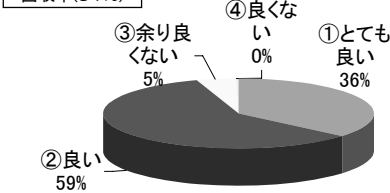
ステップアップ研修  
回収率(96%)



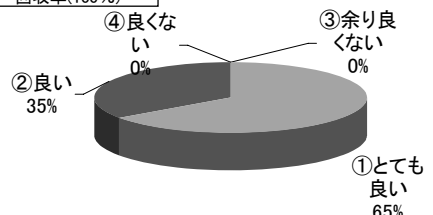
小学校英語活動研修  
回収率(88%)



情報教育研修  
回収率(84%)



ヤングリーダー研修  
学校パワーアップ研修  
回収率(100%)



## ◆ 情報教育 ◆

昨年12月に実施した「ICT機器の活用に関するアンケート」では、約4分の1の教員が週に1コマ以上ICT機器を活用した授業を展開しているとの結果でした。これはICT機器を日常的に活用する教員が徐々に広がってきていると考えられます。平成23年度の情報教育研修でも、他市での授業活用事例を盛り込んだ実践報告を実施し、普通教室でのICT活用を更に発展させる研修を展開しました。また、情報リテラシー研修においても「PowerPointの活用」等、生徒が授業でICT機器を活用できるようにすることを目的とした研修、ホームページやブログ等、教職員の情報発信のスキルアップを目的とした研修、学習コンテンツパック活用等導入されているソフトの活用を目的とした研修等、夏休みを中心に合計41講座実施し、受講者は延べ644名となりました。また、今年度も学校を会場にした研修も実施し、会場校の先生方にも多く参加いただきました。

情報モラル教育におきましては、夏休みに大学の先生を招いて研修を実施しました。また、2・3学期に小・中学校で情報モラル教育の公開授業を実施しましたが、受講者は延べ70名を超え、情報モラル教育への関心の高さが伺えました。今後も情報モラル教育推進の研修の充実を図りたいと考えています。

次年度も教育センター主催の情報教育の研修を実施していきますが、各校でも情報教育推進委員会を中心に校内情報教育研修会の計画や、中学校ブロックにて情報交換をしていただければと考えております。特に情報セキュリティ研修は情報漏洩等の未然防止に繋がるので、一層の充実を図りたいと考えています。校内の情報教育研修の講師の紹介やICT機器に関する相談がありましたら、教育センターまで御連絡下さい。

## 平成24年度 教育センター業務の追加について

★平成24年4月1日から、組織改正に伴って以下の業務が教育センター所管となります。

### ①管理職研修

- 校長・教頭研修（夏季休業期間中を含む）       新任校長・教頭研修

### ②校内研修支援

- 講師謝金（各校7,000円\*3回）       研修・大会参加負担金（各校12,000円）

### ③研究学校委嘱

- 教育ビジョン・指導事項にリンクした研究主題での研究委嘱（公募決定、原則3年間）  
 吹田市教育研究大会にて研究成果を発表（委嘱2・3年目）

### ④教育研究団体支援

- 学研（小・中学校教育研究会）の運営支援・・・総会、役員会、運営委員会等  
※各部行事（音楽会、体育大会、科学作品展等）及び児童生徒交通機関利用費は、指導課所管  
 各種教育研究団体の負担金及び吹田市教育研究団体への補助金

### ⑤学校教育支援

- 学校教育支援者（エス・ネット）       スクール・ボランティア       学校インターンシップ  
※登録、保険、支援者リスト

### ⑥ICT環境整備

- ICT機器の整備（職員室・教室・図書室等）  
 指導課（市町村プロジェクト）や教育総務課による整備機器の保守・管理  
※電子黒板、書画カメラ、タブレット型ノートパソコン、プロジェクタ等  
※市費非常勤事務職員用ノートパソコン